



11月21日 勉強会@うきは市

筑後川と林業活動

報告の目的

- ▶ 道路網と自動車の普及以前の物流は水運が担っていた
- ▶ 筑後川でも1954年の夜明ダム完成まで筏流しが行われていた
- ▶ 筏流しが地域林業の発展に貢献していた時代の整理を通して流域の地域社会と文化的背景に対する理解を深めていきたい

手法

- ▶ 林業に関する研究を中心にレビューして、林業からみた筑後川との関わりについて整理する。

森林・林業の特異性 (特に農業との比較)

- ① 植栽から伐採までの育成期間の長期性
- ② 収穫時期の融通性
- ③ 天然林と人工林が併存 (育成に係るコストが異なる)
- ④ 林業が地域・流域・地球の環境に大きな影響を与える
- ⑤ 国有・公有の森林が存在



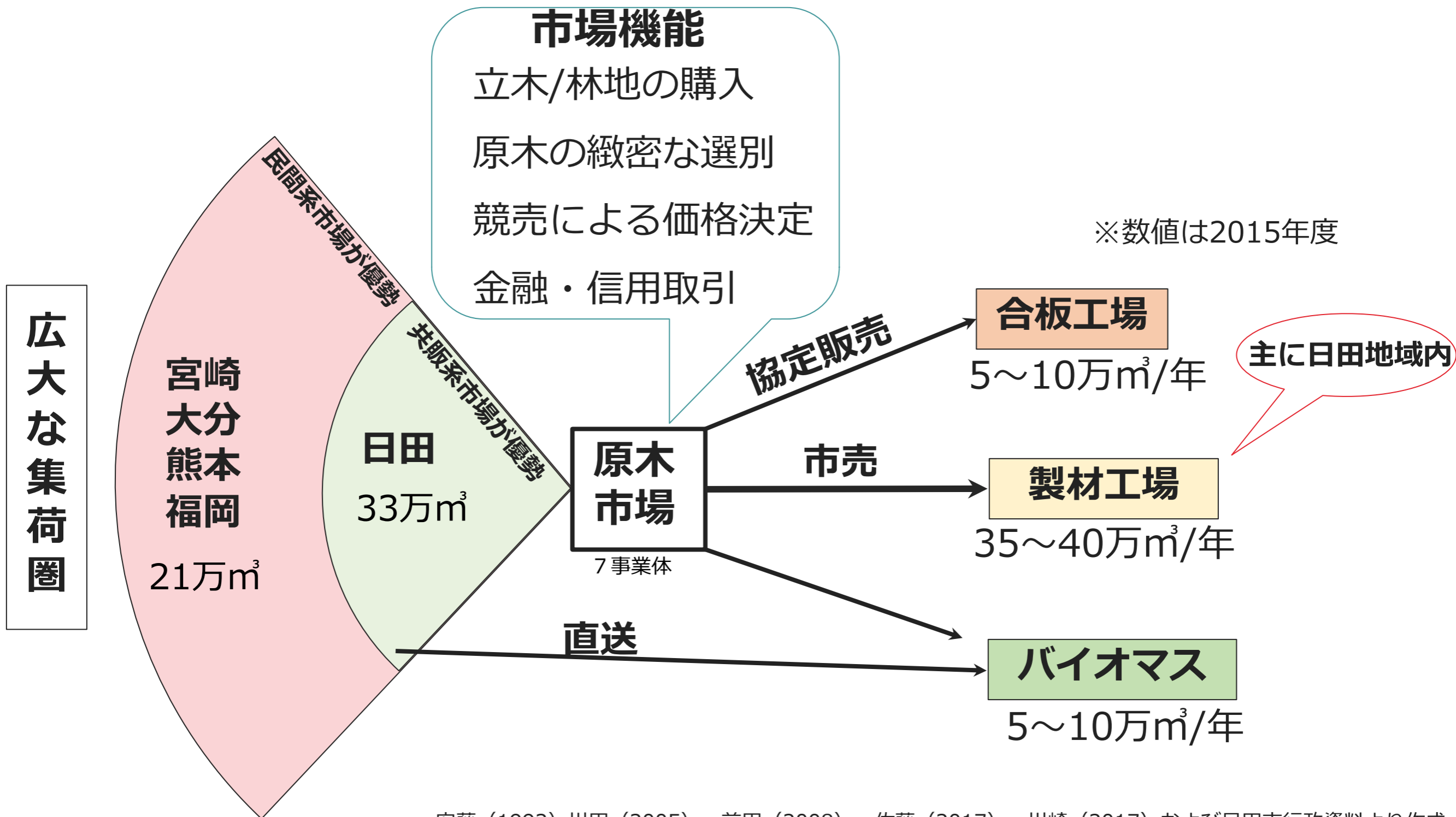
筑後川を代表する林業地：日田の現在①

- ▶ 総土地面積66,603haの内, 82.7%が森林で人工林率は76.3%
- ▶ 33万m³のスギ・ヒノキ原木を生産（=静岡県全体に匹敵）
- ▶ 日田以外からも原木が集まる「集積地」（総計20～30万m³）
- ▶ 原木の多くは製材や合板に加工され、九州内外へ出荷

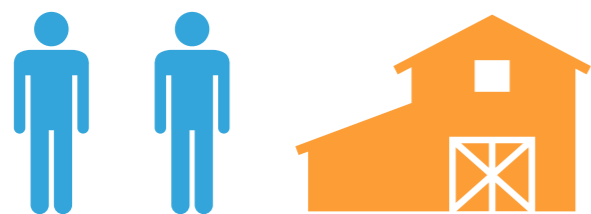


原木の競売風景@日田

筑後川を代表する林業地：日田の現在②

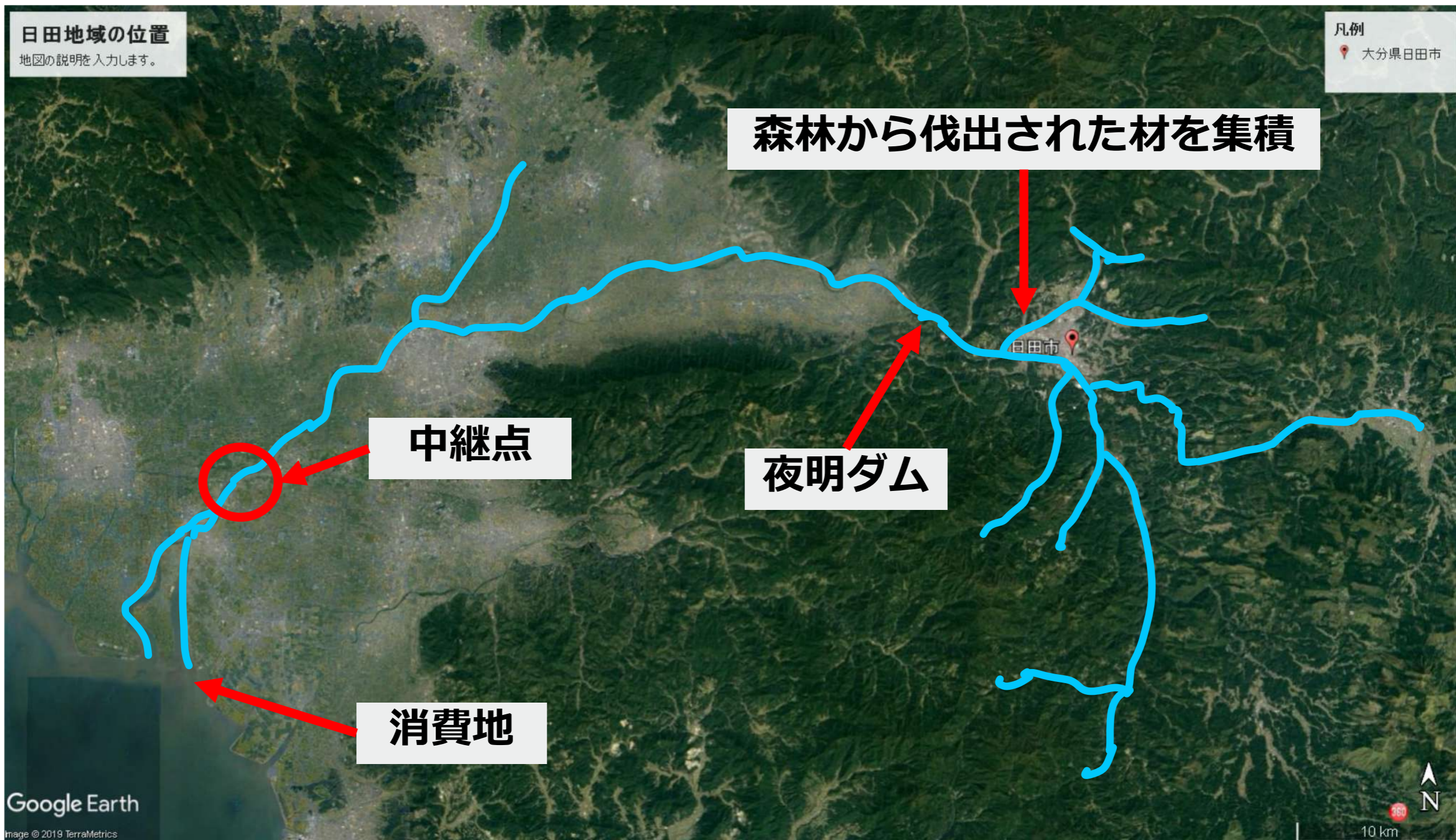


日田林業と消費地を結んだ筑後川



原木（丸太）は有用だが嵩張り、重たい
いかに楽に低コストで輸送するかが課題
水運は非常に有効な手段の一つ

日田は水運の要所



黎明期の日田林業

- 1680年頃に初めて筏流しが行われた（主に竹・雑木）
- 1700年頃から焼畑耕作跡地にスギの直挿造林が始まる
- 明治中期に吉野林業の技術導入で実生苗が普及
- 鯛生金山の配当金を林地買収と造林に投入する人が現れる
- 天然林を伐り開いた跡地へのスギ造林が活発化
- 次第にスギの生産量が増加

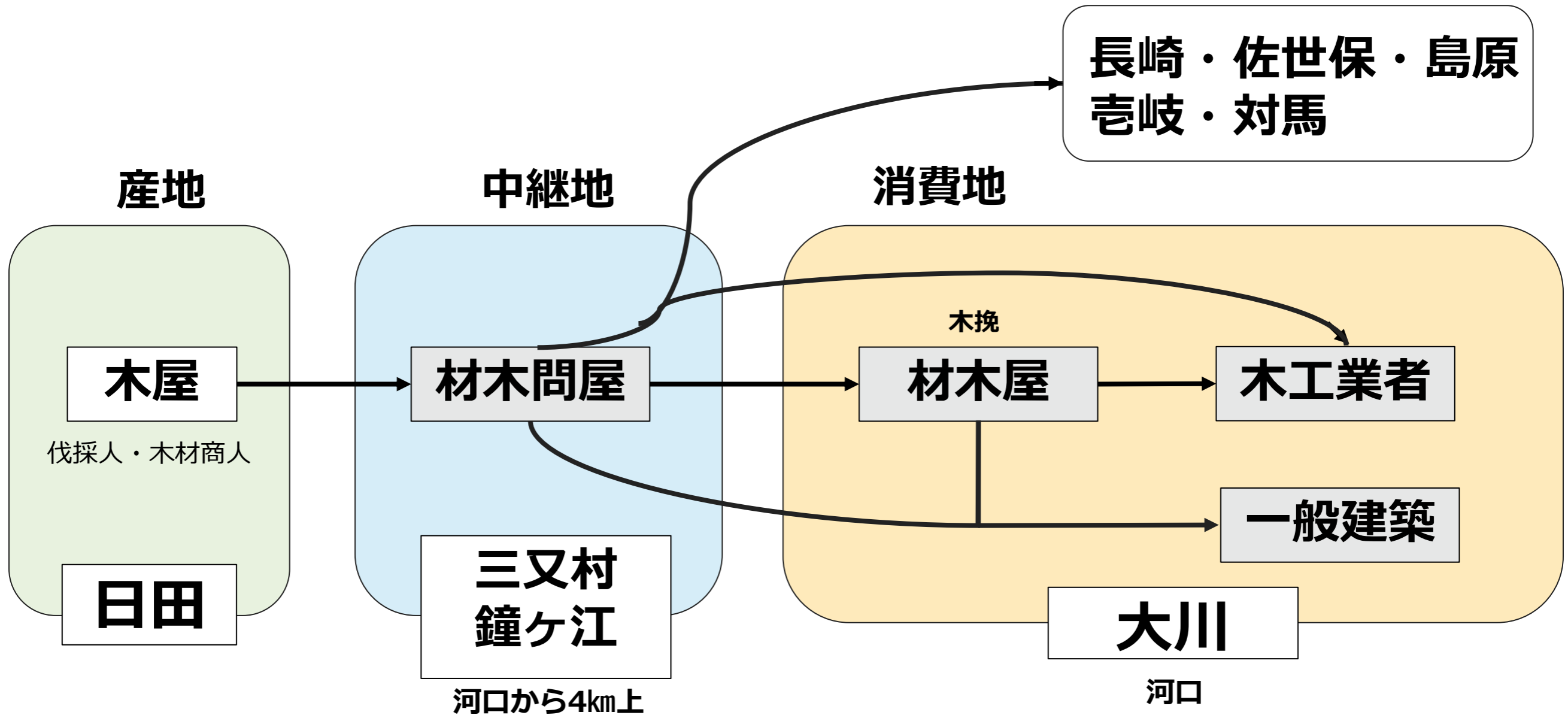


いかだ流し（夜明）



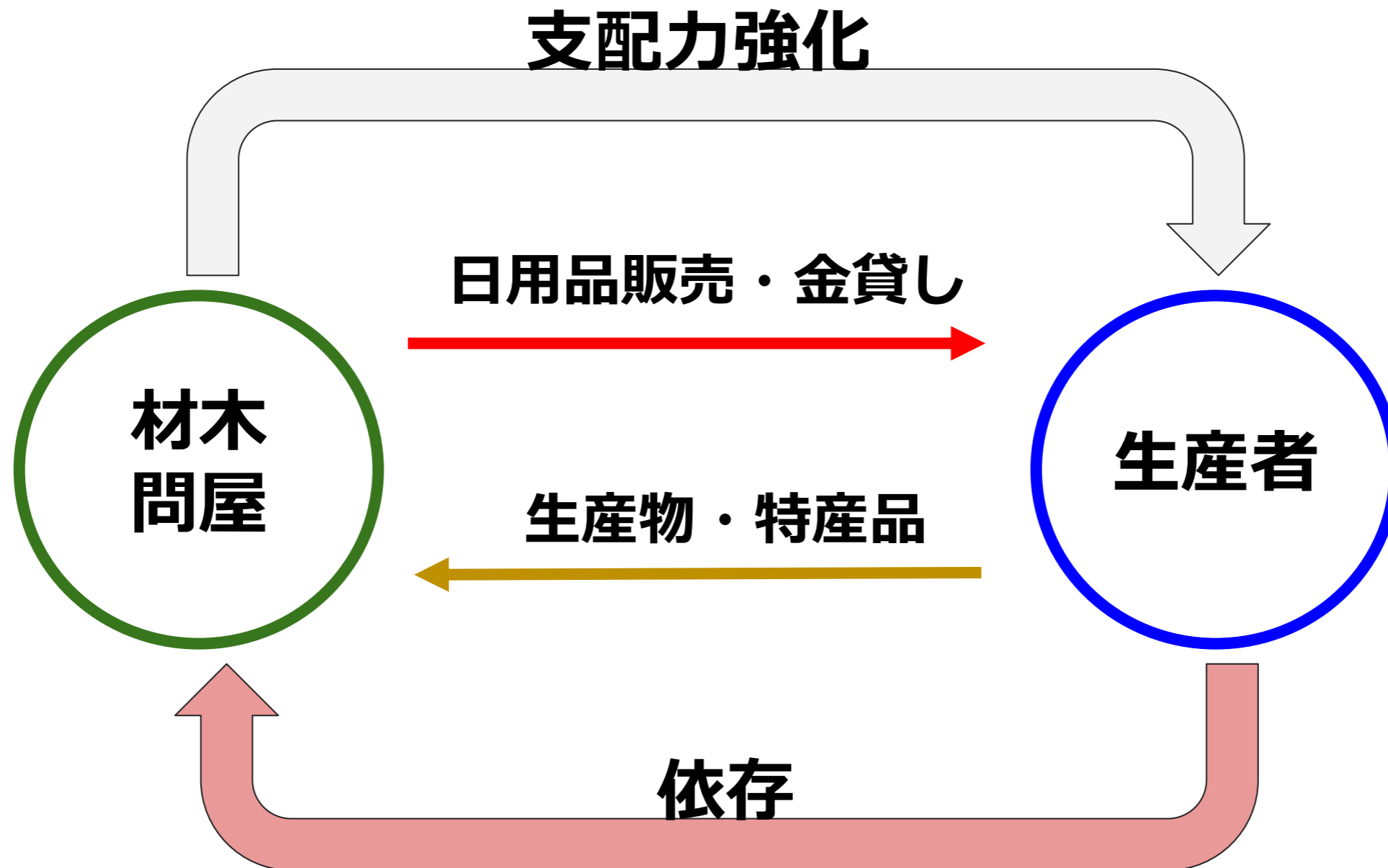
いかだ流し（荒瀬）

有明海が生んだ特殊な流通



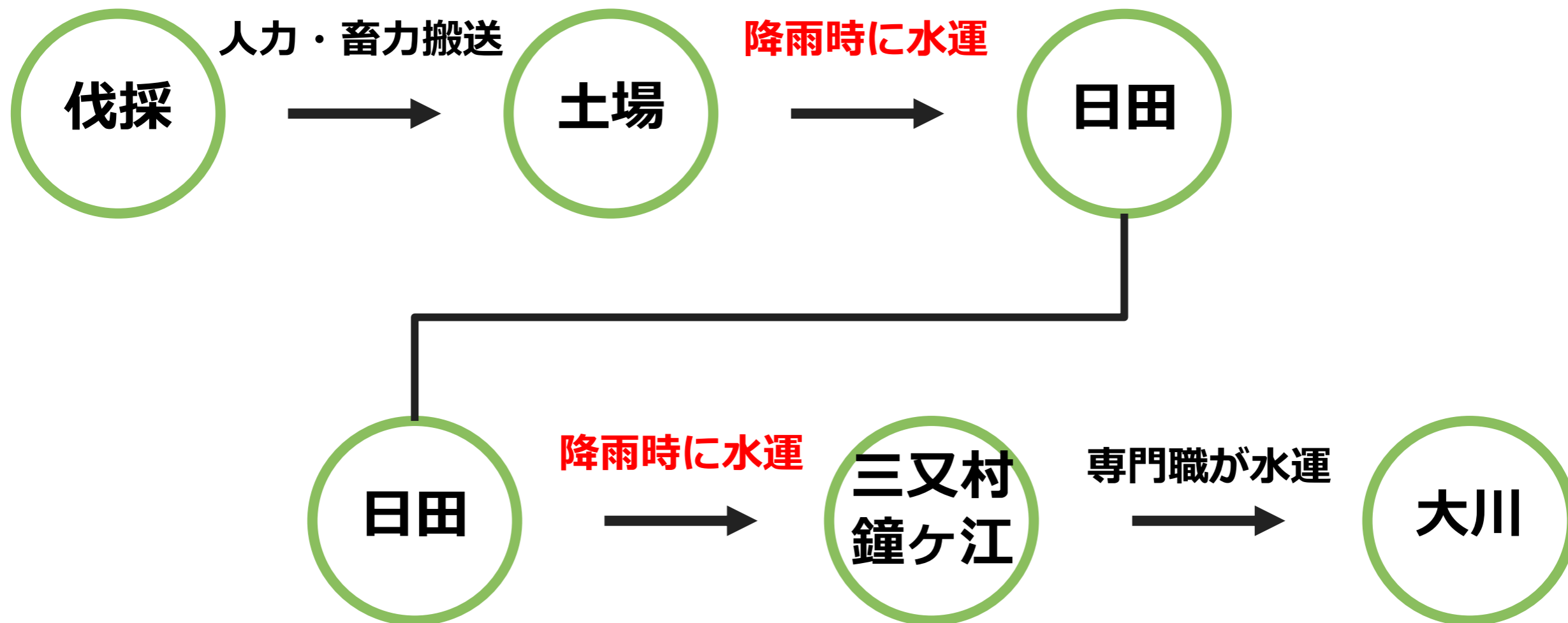
有明海は干満の差が激しく、**港付近に筏を係留できない**
鐘ヶ江から大川の区間は**専門の筏師が必要**だった

一般的な木材の産地問屋の展開



- ☑ 日田の場合は、鯛生金山からの収入や自然的制約により材木問屋が発達せず、産地を支配する展開に至らなかった

木材は投機的リスクの高い商品



大雨では木材が流されてしまう恐れもあり

山から伐り出した木材を確実に入手するのは難しい

大川の木工業の発展 —消費地の変化—

表：大川木工業の工場数の推移

年代	木工業戸数	従業員数
文化文政頃	数10戸	
明治10年代	150戸	
日清戦争後	300～350戸	
明治34年	551戸	
大正10年	602戸	2,300人
昭和7年	782戸	
昭和9年	約800戸	約4,000人
昭和15年	700戸	3,500人
昭和24年	636事業所	1,754人
昭和28年	704事業所	2,803人
昭和32年	734事業所	3,744人
昭和38年	1,198事業所	8,262人

明治初期までは水車製造が中心

使用する材は「老齢赤身の杉材」

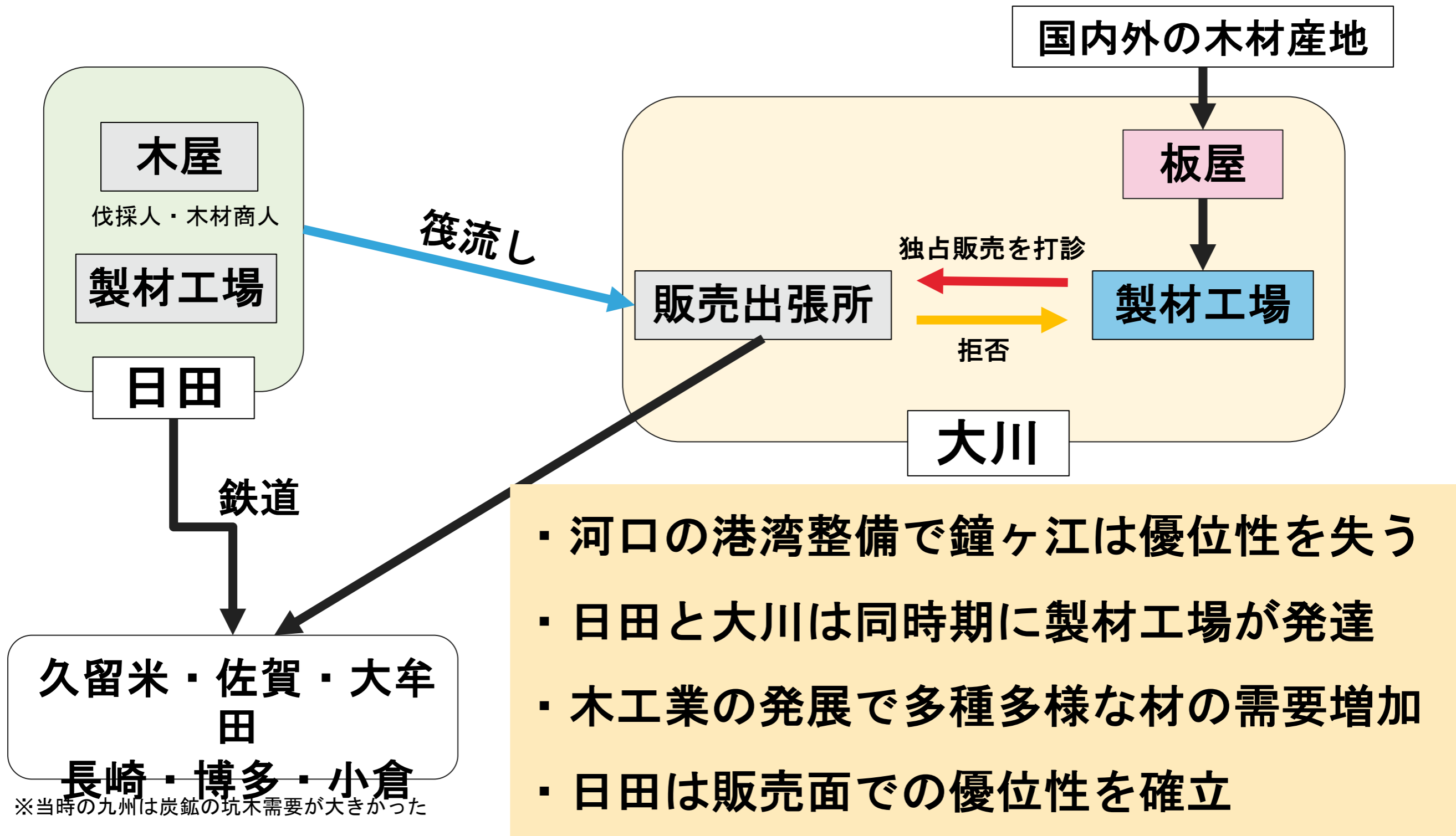
→受注生産が主流

明治以降は大衆向け商品製造が活発化

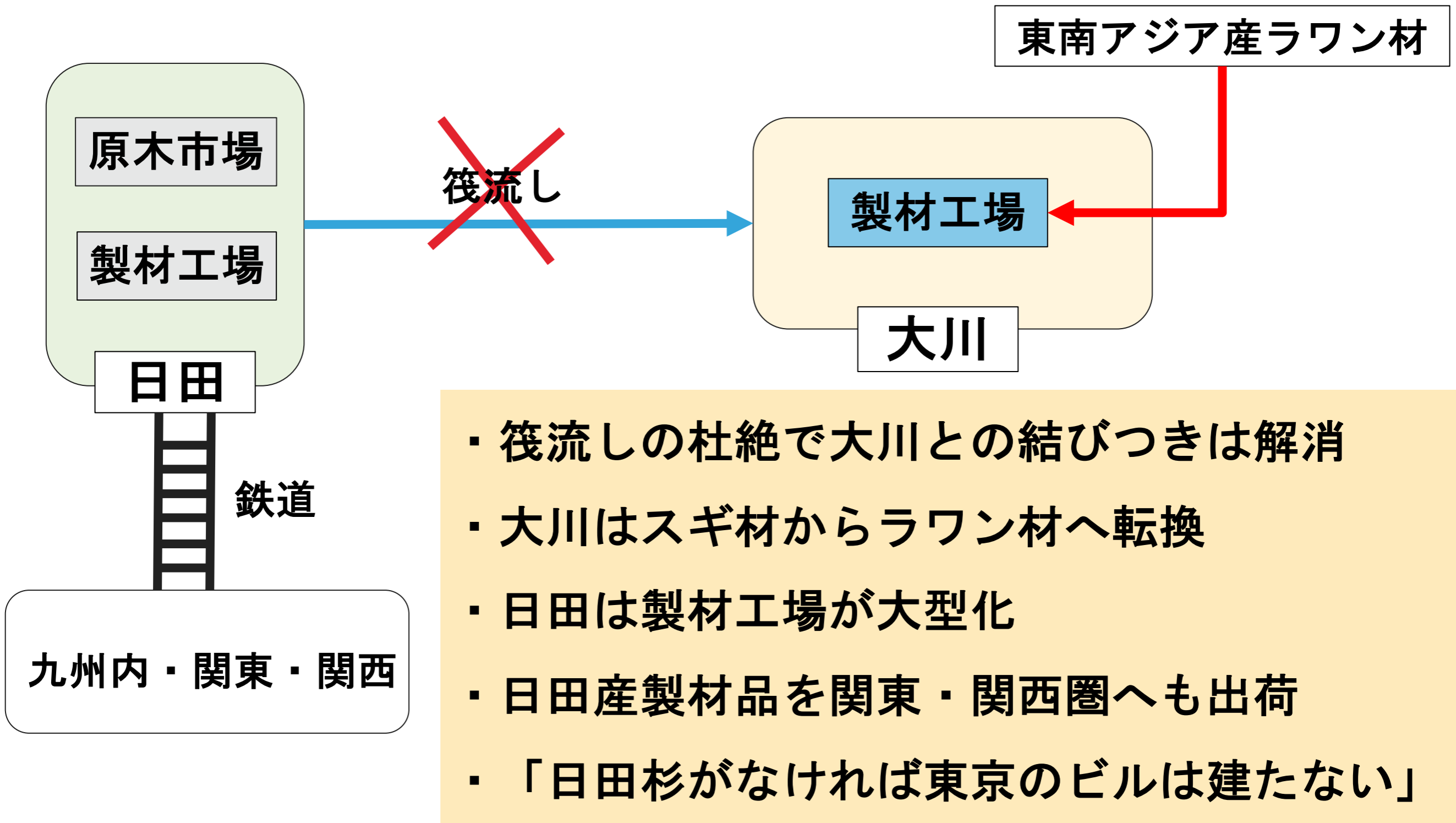
使用する材は特に選好されない

→大量供給が可能

製材工場の発展と流通の発展（大正～昭和）



夜明ダム建設後（1954年～1960年）



- ・ 筏流しの杜絶で大川との結びつきは解消
- ・ 大川はスギ材からラワン材へ転換
- ・ 日田は製材工場が大型化
- ・ 日田産製材品を関東・関西圏へも出荷
- ・ 「日田杉がなければ東京のビルは建たない」

まとめ

- ▶ 日田林業は筑後川を利用して下流域の消費地と結びついてきた
- ▶ 干満の差が大きい有明海の自然環境が木材流通を規定した
- ▶ 筑後川を流通路にして日田と大川は発展した
- ▶ 夜明ダムの完成は日田と大川の関係を分断し、それぞれ独自の道を歩むようになった

参考文献

- ▶ 農林省編（1934）日本林政史資料 江戸幕府領（下）郡代支配所篇。朝陽会，東京
- ▶ 坂本武信編著（1979）日田木材協同組合組合百年史。日田木材協同組合，日田市
- ▶ 佐藤ら（1955）日田の林業。大日本山林會，東京
- ▶ 鈴木ら（1969）日田林業の展開過程。Vol22(5)，林業経済，p14-27，13
- ▶ 佐藤（2019）森林・林業の特質と民有林「改革」をめぐる論点。Vol69，農業・農協問題研究，p2-16
- ▶ 堺正紘（1986）スギ並材産地の形成と展開に関する研究。九州大学農学部演習林報告。56，pp.13-149
- ▶ 堺正紘（1974）成立期における地主森林経営の構造：日田林業地帯，合谷家の森林・所有経営。演習林集報。25，pp.75-121
- ▶ 堺正紘（1972）日田地方の山村住民。林業経済Vol25(5)，pp.30-33
- ▶ 九州経済調査会（1959）大川家具工業における技術的發展段階と工業形態の現段階及びその問題点。九州経済調査会
- ▶ 山口明日香（2008）戦前期日本の炭鉱業における坑木調達一産業化と木材利用一。社会経済史学Vol73(5)，pp.23-46